



題字 井口 文章
再刊 第259号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2018

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：校外学習 東京を駆け巡る
部活動で好成績が続々！
二面：過去最多人数の新任の先生たち
一年生、ネットの危険学ぶ

新友と発見！東京の魅力を堪能

2年生、校外学習で思いで作

4月26日(木)に2年生、春の校外学習が行われた。上野、浅草、築地、葛西、お台場の5つのエリアをそれぞれの班で企画したルートで見学し、これから一年を共にするクラスの仲間との親睦を深めた。

浅草エリア

天候に恵まれた青空の下。歴史ある東京の名所として名高い浅草は、平日にも関わらず多くの観光客で賑わっていた。一番の記念撮影スポットである雷門をくぐると、仲見世通りがある。日本や「和」を感じさせる店が多く、漢字Tシャツやストラップ、人形焼などを売る数々の土産物屋が多くある。江戸風の小物屋で友だちとストラップを見比べたり、アイス最中など食べ物の列に並んだりする錦城生も多かった。宝蔵門には山形県村山市から奉納されている大わらじが飾られていた。4.5メートルもある大わらじは、10年に一度の周期で新しいものと交換されるそう。次の交換は今年の秋に予定されている。浅草寺本堂の前に設置された常香炉(じょうろう)と呼ばれる大きな香炉。煙をかけた部分がよく燃えている。白い煙の中には人だかりができていた。少しでも御利益を得ようと頭にたくさんの煙をかける錦城生もいた。また、本堂を出ると左手側には東京スカイツリーを見る



東京スカイツリーを背にスカイツリーポーズ



多くの観光客で賑わう浅草寺本堂

チへむかう予定だという班は「意外に近い」歩いて行けるのでは」と次なる目的地への期待に話を弾ませた。

ソフマチエリア

とうきょうスカイツリー駅からすぐのソフマチ内部にあるすみだ水族館。入って最初に見える「自然水景のコーナー」では、大きな水槽内に水草やエビ、小魚が棲息し、生物たちのありのままの自然を感じることが出来る。美しい水槽に生徒は釘付けになり、色とりどりの小魚や小エビを見つけては「かわいい！」と声をあげていた。その先の「クラゲ」



色とりどりの魚に興味津々

部活大会お疲れ様です

ソフトボール部 都大会

4月22日(日)錦城高校で行われたソフトボール春季大会4支部予選で、見事ソフトボール部が都大会出場を決めた。そのチームを率いたキャプテン西谷内さえさん(3J)は「先輩と後輩の壁がなく、とてもいいチームの状態です」と語る。今回の予選大会もチ



基礎練習に励むソフトボール部

ームで円陣を組み一人ひとりが活躍を誓ったそうだ。

また、無事にこの大会を通過できた裏には、引退の時期をかけた背水の陣で挑んだ3年生の活躍があった。2年生は経験者が多かったため、3年生は声かけでの雰囲気作りを中心にチームに貢献しているという。試合開始早々からピンチになった時も、チームで声かけをして乗り越えた。都大会に向けては「ベスト8



「仲間のことを考えると頑張れた」と粕谷さん、小林くん

バドミントン部 関東大会
錦城バドミントン部(以下バド部)は先日の東京都関東予選で男子が6位、女子が3位に輝き、男女共に6月の関東大会に出場する。部長の粕谷紗希さん(3E)と副部長の小林真矢くん(3E)に話を聞いた。

先輩や支えてくれた人、周りで頑張っている仲間のことや練習が辛くても頑張りましたと2人は振り返りかけた。

までは勝ち進みたいから、チーム一丸となって個々の力を全て出せるようになりたい」とこれから始まる試合への意気込みを口にした。

関東大会への意気込みを聞くと小林くんは「出られるだけで嬉しいです。皆で楽しみ、1戦でも多く勝ちたいです。目標は2回戦突破です」。

粕谷さんは「女子は8年ぶり、男子は14年ぶりの出場。掴んだチャンスを無駄にせず、今まで支えてくれた人に感謝の気持ちをもって戦いたいです」と語る。

最後に2人は、応援よろしくお願いしますと錦城生へ呼びかけた。

校外学習後、担当の納富先生に話を聞いた。朝の集合時、少数の遅刻により学年全体の出発時間に影響が出てしまったことについて「この遅刻を教訓にしてほしい」と話した。

また、今回の目的は様々な文化に触れること、そして新しいクラスメイトと仲良くなることだ。それぞれの見学場所での学びを深め、さらに職員としての思いを出せることができたという。校外学習は成功だったといえるだろう。

来年度の修学旅行に向けての土台作りでもある今回の行動。もう一度振り返り、今後の学校生活に活かしていこう。

を漏らしていた。コーナーの最後は生後まもないクラゲを見ることができ、体長1センチメートルにも満たない小さなクラゲの姿に驚きの声をあげていた。

館内で特に人が集まっていた「ペンギン」コーナーではまたま餌やりにも立ち会うことができ、必死に餌を追いかけペンギンの姿にみんながこりこり。ペンギンを間近で見られるこのコーナーに生徒一人は「気持ちよさそうに泳いでいるペンギン達を見て自分もさわやかな気持ちになりました」と笑顔で話していた。

また、夜間の演出ではプロジェクトシンマッピングもされたり、と盛りだくさん。周りは観光客で賑わい、職員揃ってポーズをとって記念撮影をする錦城生の姿も多く見られた。「とても大きくて迫力があつた」と口々に感想を言い合う。

心地よい海風や近未来を感じさせる町並みなど、普段とは違った景色を通して、東京を満喫することができた。

「演劇がやりたい。けれど今年は受験生。夏休みは勉強を頑張りたい気持ちの狭間で揺れている。今最大の悩みだ」中学で演劇部に入り気づいたらハマっていた。錦城には演劇部がなかったけれど高1の秋には中学の演劇部の同級生4人と市民祭りで演劇をやった。久しぶりにやる演技はやっぱり楽しかったし、観に来てくれた友人に「良かったよ、最後感動して泣いちゃった」と言ってくれた時の喜びは今でも忘れられない。昨年の錦城祭。飲食を販売する団体が多く中で4クラスが演劇をやっていた。でも何より一番印象に残っていることは有志合唱団が発表していたことだった。錦城には演劇部がないし新聞委員会が忙しいから高校では演劇は難しいと思っていたが、有志でも錦城祭で発表ができることが衝撃的だった。取材や学校行事で舞台を観るたびに「やっぱり演劇をやりたい」という思いが強くなった。けれどクラスで聞かせるのは、時間がかかって夏休みが潰れそうと嫌だ、クラスがまとまらなくて失敗しそうという声。昨年高3でクラス演劇をやった先輩はクラスで反対意見があったが演劇をやったクラスの絆が強くなったと聞いた。「クラスで1つの作品を作り上げた達成感、貴重なものだった。今しか出来ないことをやりきれ良かった。後悔は絶対ないと思う」。

演劇部は、次期王になるべく



ユニコーンガンダムの前で記念撮影

わたり、夜間の演出ではプロジェクトシンマッピングもされたり、と盛りだくさん。周りは観光客で賑わい、職員揃ってポーズをとって記念撮影をする錦城生の姿も多く見られた。「とても大きくて迫力があつた」と口々に感想を言い合う。



美味しそうなメロンパンとはいチーズ

追分満点の模型

劇終了後、何度もカーテンコールが行われ、拍手は止むことなく送られた。生徒たちから「観てよかったです」「また来たい」という満足の声がたくさん聞かれた。(藤)



自由の女神と一緒に記念撮影！



追分満点の模型

見せ場は最初の5分。幕が上がると、キリン、シマウマ、チーターなどの動物が次々と舞台上に集まってくる。客席の後部からも大きな象が現れ、その迫力と近さに驚いている生徒の前を悠々と歩いていく。手足の細かい動きで表現された動物たちは、生き生きとして圧巻だった。

ミュージカルの王を堪能

むらさき草

「演劇がやりたい。けれど今年は受験生。夏休みは勉強を頑張りたい気持ちの狭間で揺れている。今最大の悩みだ」中学で演劇部に入り気づいたらハマっていた。錦城には演劇部がなかったけれど高1の秋には中学の演劇部の同級生4人と市民祭りで演劇をやった。久しぶりにやる演技はやっぱり楽しかったし、観に来てくれた友人に「良かったよ、最後感動して泣いちゃった」と言ってくれた時の喜びは今でも忘れられない。昨年の錦城祭。飲食を販売する団体が多く中で4クラスが演劇をやっていた。でも何より一番印象に残っていることは有志合唱団が発表していたことだった。錦城には演劇部がないし新聞委員会が忙しいから高校では演劇は難しいと思っていたが、有志でも錦城祭で発表ができることが衝撃的だった。取材や学校行事で舞台を観るたびに「やっぱり演劇をやりたい」という思いが強くなった。けれどクラスで聞かせるのは、時間がかかって夏休みが潰れそうと嫌だ、クラスがまとまらなくて失敗しそうという声。昨年高3でクラス演劇をやった先輩はクラスで反対意見があったが演劇をやったクラスの絆が強くなったと聞いた。「クラスで1つの作品を作り上げた達成感、貴重なものだった。今しか出来ないことをやりきれ良かった。後悔は絶対ないと思う」。

祭。あなたはどんな思い出をつくりますか。(鶴)

新任 錦城を描く新進気鋭の先生方②

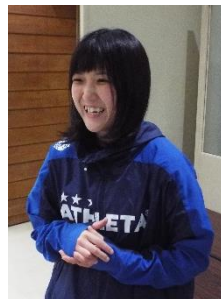
新任の先生の紹介、第二弾。前回に引き続き今回は体育科と英語科の先生に錦城生の印象や先生自身について取材を行った。もう授業を受けた人も多いと思うが、もっと先生のことを知り親しくなろう。

(編集部共同取材)

保健・体育科

あおき ひとみ
青木 瞳先生

「苦手で一生懸命挑戦してください」



「笑顔で、強く、自分らしく。青木先生は、この言葉をモットーとしている。中学校から高校までバドミントン部に所属し、大学ではコーチとして経験を積んでいた。体を動かすことが好きなので、今もバドミントン部の生徒達と一緒に汗を流している。試合では相手と向き合いながら戦うため、どうしても相手のペースを気にしてしまいます。だからこそ、自分らしさが大事」と力強く話した。

体育などの実技科目は、どうしても得意・不得意が出てくる。「苦手でも、一生懸命挑戦することが大事。恥ずかしがらないで」と青木先生。その言葉からは誰にも負けない強い意志が感じられた。

しばた けいいち
柴田 慶一先生

「授業でもっと手を挙げてくれると嬉しいですよ」



「一人に何かを教えるのが好きだった」と先生になった理由を語る柴田先生。教えることで生徒が成長し、顔つきが変わるのが励みとなっているという。柴田先生は小学生の頃からバスケットボールをや

っており、高校でもバスケット部に所属していた。今は部活動の顧問としてバスケットを続けている。

バスケット一色に染まっている柴田先生の趣味は、食事と音楽鑑賞、そしてスポーツ観戦。年1、2回スタジアムなどに行き、様々なスポーツを観戦するという。最近、音楽はBach numberを聞いているそうだ。

高校時代、部活に熱中していたそうだが、「受験のときに疎かにしてしまったので英語を勉強しておけばよかったです」と過去を振り返る。その教訓から錦城生に向けて部活と勉強、どちらも疎かにせず、きちんとやって欲しいと話した。

「積極的に話しかけてきてください」



たなか まなみ
田中 真奈美先生

「積極的に行き、話をよく聞きましょう」

錦城生の印象は「話をよく聞きメリハリがある。活発で授業だけではなく部活動や委員会にも取り組む姿がいい」と話す。笑顔が溢れるような授業を心がけていきたいという意気込みだ。

英語科

すずき しゅん
鈴木 潤先生

「The sky is the limit」



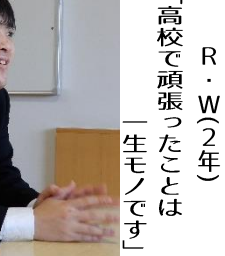
高校時代はホッケー部に所属していた鈴木先生。「マイナーな競技で大会自体があまりなく、いきなり都大会出場でした。一回戦敗退でしたが」と高校時代の部活について笑いながら話してくれた。

映画鑑賞とバイクが趣味で、「スターウォーズ」シリーズがお気に入りの映画だという。

「勉強に苦手意識があった先生は、高校生のとき英語に興味をもったと話す。英文法や英語の言い回しに疑問を感じたのが始まりだという。大学でも英文法を勉強し、それを教えたという思いから教師になつたそう。錦城生は一生懸命勉強しているのだから私も頑張ろうと思える」と話してくれた。「The sky is the limit(可能性は無限大)」と力強く錦城生にメッセージを残す。

ふくえ こうき
福江 幸喜先生

「高校で頑張ったことは一生モノです」



錦城の卒業生である福江先生は、高校時代英語を教わっ

た北川先生と堀河先生によって日本語と違う英語の楽しさに気づき、教師の道に進んだという。

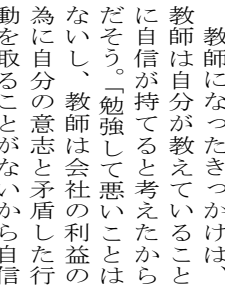
錦城での思い出は3年生時の錦城祭。受験生であるにも関わらず夏休みを潰して、クラスでストップモーションフィルム(写真をつなげて映像にするもの)を完成させたときに大きな達成感を得たそう。

今では職員室や部活動などの授業以外の仕事が多く、教育実習生として錦城に来た去年と比べ教師の難しさを実感している。さらにクラスによって各々の個性があるため、授業のスタイルを調整するのが大変らしい。

「錦城での生活は大変だけれど、頑張った分だけ実力になる。だから好きなことはとことん頑張る」と笑顔で話した。

みわ なるの
三輪 瑠乃先生

「英語が苦手な人の立場で教えます」



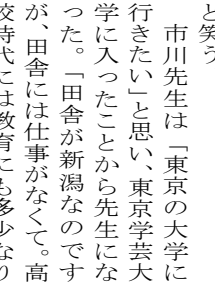
三輪先生は英語を教えるうえで、分かりやすく教えることを心がけているという。「問題を解いて解説する授業をどうやって面白くするか難しい」と話した。

「英語が苦手な人の立場で教えます」

市川先生は「東京の大学に行きたい」と思い、東京学芸大学に入ったことから先生になった。「田舎が新渇なので、田舎には仕事がなく、高校時代には教育にも多少なりとも興味があったのかな」と話す。

市川秀幸先生の趣味はゲームや料理。ゲームはモンスターハンターを週末の時間のあ

「目標をしっかりと持ってほしい」



市川 秀幸先生

「目標をしっかりと持ってほしい」

「様々なレベルの本で多読するのがオススメです」

先生は、小さい頃から人に教えるのが好きだったという。中学生のとき区での英語のスピーチコンテストで優勝し、自信ができたことが英語の教師を目指したきっかけだそう。

「単語を覚えるのはもちろん重要ですが、英語の文法には規則があるので論理を理解すればわかるようになります」と話す辻先生。なんとなくわかったのではなく、構文を掴んで明確に理解してもらえ

「英語の勉強は楽しむことが大切」

「英語の勉強は楽しむことが大切」



境 奈津希先生

先生になろうと思った理由を聞くと、「部活動を見たかった」と話す境先生。中学のときは吹奏楽部に所属していたそう。一番印象に残っているのはぼろぼろに負けて終わってしまった中2のときのコンクール。「悔しかったから凄く頑張ろうと思いました。次の年は少し上手くなりました」と当時を振り返る。

担当教科である英語は元々好きだったという。「英語はコミュニケーションの一つであり、楽しんでいけばいふれることが大切」とアドバイスしてくれた。休日はよく映画鑑賞をするという先生。やはり音声は英語で楽しむのがいい。「私が学校に来る日数は少ないですが、どうぞよろしくお願ひします」。



全員でケバブとシチーを作る

クッキング同好会は現在、2年生7人、1年生4人で活動している。今年度は1年かけて世界の料理をインドから西回りに作っていき、最後に日本の料理を作るという計画を立てているそうだ。世界の料理シリーズとして、第1回はインド料理のカレーとナンを、第2回である今回は中東料理のケバブとロシア料理のシチーを作っていた。今回この2つの料理を作ることになった経緯は、中東の料理、ケバブという名前はよく聞かぬがあまり食べたことがないという理由から。作る料理は事前に自分たちがインターネットで調べて作っているという。ケバブの作り方を調べた際、レシピに市販のピタパンと書いてあったため更にピタパンの作り方も調べ、粉から作るという手の込んだ調理をしていた。完成後には「みんなで1から作った料理は美味しい」と自分たちで作った料理を頬張っていた。(棟)

まだまだ新入生大歓迎 訪れてみては?

4月28日(土)、有志合唱団が視聴覚室Bにて新入生歓迎コンサートを行った。オープニングではスタジオジブリでお馴染みの『さんぽ』の軽やかなメロディと共にメンバーたちが入場。1曲目の『鱗』では全メンバーによる美しいハーモニーが紡がれ、2曲目は男声合唱『次元』、3曲目は女声合唱『百年後』が披露された。そして、4曲目を前にして始まったのは突然のQ&Aコーナー。MC二人による会話形式で活動概要がテンポよく紹介されていく。4曲目の『君が君に歌う歌』が終わると、始まったアンコールでは『怪獣のパラード』が圧巻の音量で披露された。合唱団の演出と書記を担当する和田花さん(3K)は「正直こんなにたくさんの人が来てくれると思ってなかったから、本当に嬉しかった。合唱団の創設を目指して、今は礎となるような活動をやってみたい」と今後への意気込みを語った。(湊)

情報集中・薬物乱用防止講義 SNSや薬物の怖い面を知る

4月26日(木)、第一体育館で一年生を対象に情報集中講義が行われた。次はスクールガード隊の若林伊佐夫さんからソーシャルメディアの怖い面についての講義を受けた。拡散した情報は世界中に一気に広がる半永久的に残ってしまう。もし何かトラブルに巻き込まれたら、問題の画面をスクリーンショットし、保存しておくことが大切だ。講義終了後、若林さんに話を聞いた。ネットトラブルの注意点として、「些細なことでも、何か気になる事があったら学校の先生やスクールカウンセラーなどの大人に相談してほしい」と話す。また、情報集中講義の後、小平警察署高橋厚志さんにより、薬物乱用防止講義が行われた。薬物は依存性が強く、安易な気持ちで使っていると、どんな量や回数が増え悪循環に陥る。誘われても強い気持ちを持って断ることが大切であることを学んだ。(杏・柊)



「対面型のコミュニケーションを大切に」

講義終了後、若澤先生に話を聞いた。デマ情報に騙されないために「インターネットからの情報を鵜呑みにせず、知人からの情報でも出所が分からない場合は疑うことが必要です」と語る。

大会報告

ソフトボール部
▽第68回 関東高校女子ソフトボール大会 東京都大会
一回戦 対学習院女子高等科 7対4 勝利
二回戦 対都立青梅総合 0対5 敗戦
東京都ベスト16
女子バスケットボール部
▽4月5月上旬 関東大会予選
二回戦進出
大会結果が分かり次第、職員室前「大会報告ボックス」脇の紙に書き投書して下さい

生徒会動静
5.1~5.8
5月1日(火) 新聞委員会
5月7日(月) 予算会議
中央委員会毎週活動中